

I、本園の教育目標

「いつもにこにこ元気な子ども」

- 1、健康でたくましい子どもに
- 2、だれとでも仲よくできる子どもに
- 3、しっかりと約束の守れる子どもに
- 4、あいさつのできる子どもに
- 5、自分で考えて行動のとれる子どもに

II、本年度の指導の重点

- 1、様々な人や自然との触れ合いを通して、豊かな心と体を育てる
- 2、様々な物事に興味、関心を示し、知的好奇心や思考力、感動する心などを育てる

III、自己評価の状況

◎目標を上回る

○目標に達する

△目標に届かない

	評価項目	評価 (4点満点)	取り組み状況
1	幼稚園の運営について	△	園の教育理念、教育方針に従い編成した教育課程を評価し、見直しを行う事が出来るようになった。しかし教員同士間での保育を見せ合い、検討し、評価、反省を加え幼児の生活と自らの保育につなげることがまだ弱い
2	保育の在り方、幼児への対応	○	自分のクラスの幼児だけでなく、バス内や外遊び等広い範囲で教職員が一人ひとりの幼児を観察しているが、子どもの見方、保育の工夫、遊びの展開が不足している面が多い。
3	保育者としての資質・良識・適性	◎	明るい挨拶や感謝の気持ちを言葉で伝えあったり、必要な事を報告し合う事が出来ている。限られた人数の教員、限られた時間の中で効率よく行う努力がさらに必要である
4	保護者への対応・守秘義務	◎	園での様子、トラブル、怪我など保護者に面談や電話等連絡し、きめ細やかな対応が出来ている。園生活の様子を文字だけではなく写真を使用し、視覚から伝えることができていた。 しかしコロナ感染予防の為、保護者と直接話す機会が減り、信頼関係が薄くなっている
5	地域の自然や社会とのかかわり	△	保育内容が小学校以降の生活や学習の育成につながる事、また小学校が園での子ども達の育ち等についてどのような情報を必要としているのか理解するよう努めている。 地域の自然や機関を指導計画の中で位置づけて活用することが弱い。
6	保育者の専門性に関する研究・研究への意欲・態度	○	研修で学んだことを保育に取り入れているが、積極的に研修に参加することができていない

7	地域における子育て支援	○	新型コロナウイルス感染対策を行ないながら園庭開放を行っているが利用者数が少ない。地域の子育て支援ニーズを把握し、地域へ自園の子育て支援事業のアピールを強化する
---	-------------	---	---

#### IV、保護者評価の状況

	評価項目	評価 (4点満点)	評価内容
1	子どもの成長について	◎	喜んで通園し友達や先生と一緒に過ごす楽しさの中で、いろいろな遊びに興味を持つようになり、体を動かしたり、描いたり作ったりすることを楽しむようになった。 生活に必要な言葉が言えるようになったが、相手の話を聞く事はもう少し身につけてほしい
2	園の運営について	◎	新型コロナ感染拡大する中でも予防対策をいろいろな行事を工夫し実施している事が評価できる
3	家庭との連携について	◎	子ども達の様子を面談や手紙、電話等で伝えているが、保護者が来園する機会が激減したことで、子どもの様子がうまく伝わっていない。しかし保護者からの相談には対応できている

#### V、総合的な評価結果

評価	理由
B	新型コロナウイルス感染拡大する中で、行事本来のねらいを見直したうえで、少ない教員で話し合いながら工夫して行うことができた。その中でも子どもたちはのびのびと外遊びや表現活動など、多くの経験をする中で、自分の思いを伝えたり、相手の思いを受け入れ、刺激しあいながら、徐々に相手を思う思いやりの気持ちが持てるようになり、子ども達の豊かな心や体が育っていった。また友だち同士の関わり合いが深まっていくと、友だちの真似をしてみたり、不思議に思う気持ちや疑問に思ったことを聞いたり、調べたりし、自分から知ろうとする知的好奇心、思考力も育ってきた。子ども達がもっと主体的な活動ができるために、今後教員間での情報交換や保育の振り返りを行い、よりよい保育を目指していく。

A・十分に成果があった B・成果があった C・少し成果があった D・成果がなかった

#### VI、今後取り組む課題

	課題	具体的な取り組み方法
1	・子どもの姿、成長を保護者と共に喜びあっている幼稚園の姿を外部へアピールする	・子ども達の様子をHPやポートフォリオ等使用しながら、子どもの姿にはどのような学びがあったのかをポイントをおさえ保護者にもわかりやすく伝えると共に保護者と幼稚園との良好関係が保たれている良さを外部へアピールし、安心感を与えていく。
2	・保護者や地域の子育て世代の方々へ向けた、子育てパートナーの役割を果たす	・子育ての悩みや相談等気軽に話しあえる場の提供や専門講師への依頼をし、講座開催を実践する

#### VII、学校関係者評価委員の評価

・新型コロナウイルス感染予防対策や危機管理を園生活だけでなく、課外教室にもおいても教職員が徹底して管理が行き届いており、教育目標の「いつもにこにこげんきな子ども」が確実に達成できていると考え、指導の重点をしっかりと行っていることをわかり保育を任せることが出来る学園として高く評価する

令和3年度

読書習慣を通じた学習意欲向上へ向けた取組について

【報告】

### ●目的と具体策

今年度聖徳大学多摩幼稚園では、子ども達が自主的に本を読むことの楽しさを知り、生涯にわたる読書習慣を身に付けることを目的として取組みを行いました。

絵本等を通じて文字や物語に親しんだり、想像する楽しさなどを知ること、図鑑等を用いて自ら調べたり友達と見合い話し合う、そんな習慣を獲得してほしい。結果として学習意欲の向上、幼小連携強化へ繋げていきたいと考えています。

気軽に読書に親しむための工夫の一つとして、玄関ロビーの一部を使いオープンな図書スペースを設置しました。オープンな場所に設置し、登園時、給食準備の待ち時間、お迎えの待ち時間等、時間を有効に活用できるようにしました。

学びを止めない環境を積極的に提供することで、読書習慣形成の手助けを目指します。

### ●報告

本を読むことの楽しさ、そこから発展する学習意欲を伸ばす活動を、普段の保育に取り入れて行っています。

玄関ロビーの一部を使いオープンな図書スペースを設置した後、園児達がコーナーを利用することにより自然に読書に親しむ様子を。下記に抜粋するホームページにて広く発信させていただきました。

初めは既存の備品でスタートした図書スペースでしたが次第に本棚やマットが新しいものになり園児もより過ごしやすく、居場所の良い環境となりました。日々楽しみを見つけに子ども達が集まる場所になりました。

近隣の子育て世代への開放については新型コロナウイルス感染症拡大防止により実施には至りませんでした。

### ●学校関係者評価

- ・アイデアがとても良かったとおもいます。お帰りで保護者を待つ時間、バスを待つ時間、遊びの時間のちょっとした合間、図書室ではなく子ども達の動線に置いてあることはとても大切な事だと思います。しっかりとしたベンチなども設置していただき環境にも配慮されている点も評価したい。
- ・図書スペースの近くに五月人形、ハロウィーン、クリスマス、ひな人形などが置かれ、季節ごとの本に興味を持ってもらうのにはとても良い機会と感じた。
- ・子ども達に読書の習慣を付けることはとても大変な試みだと思います。環境の充実も大切ですが、まず子ども達が本に興味を持ち手に取ることが大切だと思います。子ども達が興味を持って選べる本があるのか？本は年齢別にしっかり準備されているのか？まず本が充実していることがとても大切だと思います。見た限りもう少し努力が必要かと感じました。先生方も大変かとは思いますがせっかく設けた場所ですので色々な本を取りそろえる努力をお願いします。
- ・コロナ禍のため地域に開放されなかったことはとても残念です。読み聞かせの会を開催するなど今後の幼稚園の発展のためにもこのような取組みをしっかり進めて下さい。

聖徳大学多摩幼稚園 HP より抜粋

令和3年9月3日(土)

「このお花かわいいね(桜1組3歳児)」

子どもたちが毎月楽しみにしている観察絵本についてきたミニ図鑑が大好きな桜組の子どもたちです。



「このお花かわいいね」と話していた子どもたちへ「幼稚園に同じ花が咲いてるかな?」と聞いてみると



テラスに出て園庭を見回してみました。しかし見つからなかったようです。

子どもたちと考えました。

「みんなでお花作りしてみる?」「やりたい!」「やってみたい」「私も」「僕も」と張り切って作り始めました。



細長い小さい紙をのりで貼り、重ねて、がくや茎、葉っぱを貼ると

コスモスの出来上がり!!



「先生、見て」と出来上がりを見せてくれたので、パチリ。



すると「ぼくも、写真撮って」とリクエスト

かわいいコスモスが出来上がると子どもたちは嬉しそうに近くにいる先生に見せたり、友だちと見せあったりして遊びました。



桜1組の保育室はあっという間にコスモス畑ができました。



何しているのかな？

かざぐるまのような形だったので思わずふうっと息をかけてみる子ども姿も見られました。見ていたこっちが、ほっこりと温かい気持ちにさせてもらいました。「今度、お散歩に行ってお花探そうね!」と晴れる日を楽しみにしている桜1組です。

令和3年9月18日(土)

「しずかなようちえん」

本日、土曜保育。台風の接近もあり、休みの子どもたちが多かったです。

バスの中でも「今日はこれだけ?」といつもより少ない乗車に寂しそうな子どもたち、雨のために戸外へも行けず…。そんな日は静かに読書がいいですね。

ということで、ひまわり組(満3歳児)はみんなでどこかへ



アンパンマンと遊ぶのかな? 「アンパンマンおはよう!」と声をかけ横に置いてある消毒液で手を消毒。靴も脱いで「おじゃましま〜す」



絵本コーナーに遊びに来ました。「どれにしようかな?」「私はこれにする!」と思いつきの絵本を選び広げ始めました。



「あっこれ!」と保育室でもよく見るおべんとうバスの絵本を見つけて「たまごやきさあん」「はあい」「ハンバーグくん」「はあい」といいながら自分で見えています。



字が読めなくても「おーい」「こっちこっち!」と何となく絵に合わせて読んでみたい



「せんせい見て!」「たこだよ!」「ここにもいた!」と嬉しそう!



選んだ絵本を仲良く並んで見えています。「なにを見てるの？」と声をかけると思わず「ポーズ！」



それぞれが好きな絵本を見ていたのが友だちのしているものも気になって少しずつ集まってきたりもします。



「せんせい!消防車!」と言う声を聞き覗き込んだり・・・絵本コーナーを楽しんだひまわり組でした。

読書の秋、子どもたちがたくさんの絵本や本に触れられるように玄関ホールに、絵本コーナーを設定してしてみました。みなさんもじっくり読書をしてみませんか？

お・ま・け

玄関ホールにもうひとつ。今が旬の美味しそうな“ぶ・ど・う”がなっています。園長先生と松組(5歳児)の子共たちが作ったぶどうです。



それを見つけたひまわり組の子どもたちが「取りたい!」「えい!」とジャンプして取ろうとしていました。でも届かない・・・そこで椅子や積み木を持ってきて登ってみたり、



でもやっぱり届かない!そこで・・・





園長先生に手伝ってもらいました。次から次へと「僕も!」「私も!」園長先生・・・お疲れ様でした。

令和3年12月4日(土)

昨日ご紹介した玄関ホールの絵本コーナーのこたつは大人気でした。



「わあ、こたつ」「いいですね」と保護者からも好評でした。

令和3年12月8日(水)

「きれいなクリスマスツリー!」

園内に毎日クリスマスの音楽が流れています。トイレに行くときなどについつい鼻歌が・・・。

毎日クリスマスが来るのを楽しみにしている子どもたちです。

さて今朝のことです。ひまわり組(満3歳児)の保育室で遊んでいると「先生。〇〇くんたちどこ行ったの?」といつもはいる友達が保育室にいないことに気づきました。「トイレに行ったのかな?」とトイレの中をのぞいても見当たりません・・・。

あれ?どこに行ったのかと探していると・・・。

いました。いました。



玄関先でクリスマスツリーを飾るお手伝いをしていました。「先生ここにもつける?」「こっちに雪もつけるよ」きれいな飾りを一生懸命ツリーにぶら下げています。雪の綿も小さかったり、大きかったり。次々にやってきてはお手伝いする子どもたちでした。「メリークリスマスだね」と嬉しそう。



低いところも高いところも頑張ってつけてくれました。

でもやっぱりひまわり組の満3歳児。飽きてしまうと・・・。



こたつでひと休み。

その間に先生が電飾をつけたりちょっと直したりして仕上げを。



きれいなクリスマスツリーが飾られました。早くサンタさんに会いたいなあ。

・・・おまけ・・・

こたつは大人気。子どもたちの大好きな場所の1つです。最初はこたつを知らないひまわり組の子どもたちは中に足を入れることが分かりませんでした。

一緒にいたお兄さんやお姉さんの真似をして覚えたようです。



絵本を見ながらクスクスと笑っているのが絵本が面白いのかと思ったら、お友だちの足が当たって「くすぐったい!」でした。